

輸出品目別レポート（ぶどう）

■品目説明

ぶどうの品種は、多くの品種があり人気品種に移り変わりがあるが、「巨峰」、「ピオーネ」、「デラウェア」、「シャインマスカット」、「キャンベルアーリー」、「ナイアガラ」、などがある。特に、「シャインマスカット」は脱粒しにくく、味もよく、種がなく皮ごと食べられるため、海外でも非常に評価が高い。そのほか、「ナガノパープル」や「クイーンルージュ」など、種無しで皮ごと食べられる生食用の品種の人气が高まっている。

2024 年産ぶどうの国内収穫量は 16 万 4,600 トン（前年比 1.0%減）、出荷量は 15 万 4,600 トン（1.0%減）であった。また、全国の結果樹面積は 1 万 6,300ha で、前年に比べ 100ha（1.0%）減少した。結果樹面積（栽培面積）や生産量は減少傾向であるものの、産出額は増加傾向である。また、都道府県別の収穫量割合は、山梨県が 26%、長野県が 20%、山形県及び岡山県がそれぞれ 9%となっており、この 4 県で全国の約 6 割を占めている（農林水産省「[農林水産統計 作物統計調査 令和 6 年産日本なし、ぶどうの結果樹面積、収穫量及び出荷量](#)」）。

そのほか、青果物に関する詳細情報は、[農林水産省「果樹をめぐる情勢」](#)（2024 年 10 月）、[果樹のページ](#)、[日本青果物輸出促進協議会](#)などを参照。そのほか、関連業界団体として、[公益財団法人中央果実協会](#)、[日本園芸農業協同組合連合会](#)などがある。

なお、種苗法により、「シャインマスカット」など登録品種の種苗等を育成者権者の許諾なく海外に持ち出す行為は禁止されているので注意が必要である（詳細は、[農林水産省品種登録ホームページ](#)を参照）

■貿易概況

2023 年のぶどうの輸出額は前年比 8.7%減の 3,538 万ドル、輸出量が同 3.9%増の 2,107 トンであった（表 1）。主要輸出相手国・地域は台湾と香港で、輸出額全体に占めるシェアは台湾が 53.6%、香港が 38.6%である。輸出額全体の 92.2%がこの 2 地域に輸出されている。

なお、ぶどうは、農林水産省の[輸出拡大実行戦略](#)（2025 年 5 月）の輸出重点品目のひとつであり、2030 年までに全体 380 億円（台湾 87 億円、香港 59 億円、タイ 58 億円、マレーシア 52 億円など）を目標としている。「競合相手である他国産との差別化」や「富裕層向けを基本としつつ、買い求めやすい価格帯の訴求」などが課題である。また、贈答用需要の高い品種である「シャインマスカット」の安定供給を基本としつつ、その他の大粒で高糖度品種の訴求を推進するとしている。

▼表1：日本のぶどう輸出

(単位：ドル、トン、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
台湾	19,533,132	896	17,115,337	876	18,992,281	1,158	11.0	32.2
香港	19,052,533	840	18,729,774	1,029	13,691,306	827	△ 26.9	△ 19.6
シンガポール	1,451,760	52	1,572,230	73	1,495,350	77	△ 4.9	5.5
タイ	911,952	24	738,693	26	487,607	19	△ 34.0	△ 26.9
マレーシア	412,673	14	344,433	15	295,806	12	△ 14.1	△ 20.0
全世界	41,760,515	1,837	38,772,195	2,027	35,382,092	2,107	△ 8.7	3.9

注：対象はHSコード 0806.10

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

■海外事情

●香港

2023 年のぶどうの輸入をみると、金額は前年比 1.2%減の 3 億 720 万ドル、数量は同 4.9%減の 11 万 1,846 トンであった（表 4）。主要輸入相手国の動向をみると、1 位のチリは金額が 9,989 万ドル（前年比 22.2%増）、数量が 4 万 6,926 トン（同 12.2%増）と前年から増加した。2 位のペルーは金額が 7,245 万ドル（同 36.2%減）、数量が 2 万 6,726 トン（同 36.2%減）、3 位のオーストラリアは金額が 6,045 万ドル（同 55.8%増）、数量が 1 万 9,789 トン（同 36.4%増）となった。

▼表2：香港のぶどう輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
チリ	146,587,298	78,849	81,762,810	41,825	99,890,798	46,926	22.2	12.2
ペルー	102,715,722	42,912	113,623,503	41,886	72,450,486	26,726	△ 36.2	△ 36.2
オーストラリア	104,212,233	41,772	38,806,385	14,510	60,456,949	19,789	55.8	36.4
南アフリカ	31,139,419	12,718	21,281,585	9,799	20,394,124	7,506	△ 4.2	△ 23.4
日本	19,534,879	909	21,238,541	1,061	16,390,540	916	△ 22.8	△ 13.7
全世界	456,317,382	192,012	311,045,415	117,601	307,204,569	111,846	△ 1.2	△ 4.9

注：対象はHSコード 0806.10

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

日本産ぶどうは高価格であるが、大粒で糖度が高い「巨峰」や「ピオーネ」がこれまでも香港市場で人気があり、近年は皮ごと食べられ、甘さとフレッシュな香りを備えた「シャインマスカット」の人气が特に高い。ただし、2016 年頃から、韓国産の同品種も流通するようになり、今後注視が必要である。

[香港 PF 品目別（青果物）カントリーレポート](#)（2024 年 11 月）にて、香港の市場動向、青果物の輸入規制、輸入手続き（2022 年 7 月時点）など紹介している。

また、香港における贈答用青果物に関しては、香港 PF 深堀カントリーレポート「[香港におけるギフト食品市場～月餅・お菓子・花き・青果物～](#)」（2022 年 11 月）を参照。

●台湾

2023 年のぶどうの輸入をみると、金額は前年比 1.8%増の 9,632 万ドル、数量は同 6.4%減の 2 万 5,303 トンであった（表 7）。主要輸入相手国の動向をみると、1 位の米国は金額が 3,265 万ドル（前年比 16.5%減）、数量が 9,393 トン（同 16.8%減）、2 位の日本は金額が 2,081 万ドル（同 24.9%増）、数量が 1,158 トン（同 31.0%増）、3 位のペルーは金額が 2,055 万ドル（同 36.3%増）、数量が 8,242 トン（同 38.6%増）いずれも前年から増加した。

▼表3：台湾のぶどう輸入

（単位：ドル、トン、%）

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
米国	42,754,515	12,328	39,133,733	11,287	35,769,569	9,394	△ 8.6	△ 16.8
ペルー	13,716,288	5,504	15,078,369	5,946	21,672,619	8,242	43.7	38.6
日本	16,454,254	893	16,658,681	884	21,472,180	1,158	28.9	31.0
チリ	7,490,290	2,957	14,918,601	5,752	9,940,931	3,211	△ 33.4	△ 44.2
韓国	180,797	15	1,481,655	126	8,787,207	860	493.1	582.5
全世界	86,947,293	24,387	94,609,464	27,045	103,678,733	25,303	9.6	△ 6.4

注：対象はHSコード 0806.10

出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

●そのほか

タイについては、タイ PF 深堀カントリーレポート「[タイ輸入における 青果物・畜産物の輸入検査実態調査](#)」（2023 年 3 月）、「[タイにおける他国産輸入青果物の 輸入・販売・評価等調査](#)」（2023 年 1 月）にて、現地の青果物に関わる状況をまとめている。

ベトナムについては、ベトナム PF「[品目別カントリーレポート 青果物](#)」（2024 年 3 月）にて、ベトナムにおける市場概況、市場動向、流通、販売、法規制、流通業者から日系事業者への提言など、また、「[品目別カントリーレポート 競合国の比較（青果物、畜産物、水産物、乳製品）（販売戦略と商流構築）](#)」（2024 年 12 月）でも、ベトナムにおける輸入動向、国内における消費の特性、流通構造、主な輸入・卸業者、現状の課題などをまとめている。

・[JFOODO「シンガポールの今がわかる！現地”食”情報レポート](#)」（2025 年 3 月）

ジェトロ「[現地市場価格調査](#)」では、青果物の主要都市における市場価格をまとめている。

青果物の輸入規制、輸入手続きに関して、[ジェトロのポータル](#)にて、香港、台湾、韓国、中国、マカオ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、インド、フィリピン、米国、カナダ、EU、英国、ニュージーランドを取りまとめている。

[公益財団法人中央果実協会「世界の生食用ぶどう産業品種動向と栽培流通技術」](#)（2022 年 3 月）

本レポートに関する問い合わせ先：

日本貿易振興機構（ジェトロ）

農林水産食品部 市場開拓課 調査チーム

〒107-6006

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル

TEL：03-3582-5186

【免責事項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できる限り正確な情報の提供を心がけておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。